

第4回中部圏長期ビジョン検討会 議事録

日時 令和3年9月16日(木) 15:00～17:00

場所 web形式(事務局:整備局中会議室)

1. 開会

○司会(林企画部長)

定刻になりましたので、只今から「第4回 中部圏長期ビジョン検討会」を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、お集りいただきありがとうございます。

私は、本日の議事進行を担当いたします中部地方整備局 企画部長の林でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、検討会に先立ちまして、奥野座長より、ごあいさつをお願いします。

○奥野座長

改めまして奥野です。大変お忙しいところ、ご苦勞様です。

本日は、第4回目でございますが、中間とりまとめ案を、これまでの3回のご意見をベースにして作っていただきました。今日はもう一度ご議論いただいて、さらにブラッシュアップしてまいりたいと思います。それを、公表いたしまして、秋からの議論に備えたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○司会(林企画部長)

ありがとうございました。

それでは、ご出席委員のご紹介ですが、議事の進行上、出席者名簿にて、ご紹介に代えさせていただきますのでご了承をお願いいたします。

なお、(株)エムスクエア・ラボ 加藤委員はご都合により、ご欠席でございます。また、名簿では出席となっておりますが、愛知ドビー(株) 土方委員は、急遽ご欠席との連絡をいただきました。

それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に郵送させていただきました資料、またはメールにて送付させていただいた資料をご覧ください。議事次第、出席者名簿、資料1、資料2-1、2-2、資料3、参考資料の以上でございます。また、Web上で資料共有させていただきますので、参考にしていただければと思います。

報道関係の皆様にお知らせします。撮影については、ここまでとさせていただきます。記者席を別室にてご用意しておりますので、引き続き傍聴される方は、別室へご移動をお願いします。

それでは、議事に入らせていただきますので、ここからの進行は奥野座長をお願いします。

2. 議事

- (1) 第3回検討会における主なご意見とその対応
- (2) 中部圏長期ビジョン 中間とりまとめ(案)

(3) 今後のスケジュールと進め方

○奥野座長

よろしくお願いいたします。

早速、次第にしたがって、議事を進めてまいります。

議事(1)「第3回検討会の主なご意見とその対応」

議事(2)「中部圏長期ビジョン 中間とりまとめ(案)」

議事(3)「今後のスケジュールと進め方」の説明を、続けて事務局よりお願いします。

○事務局(加納事業調整官)

・資料1、資料2-1,2-2、資料3 説明

○奥野座長

ありがとうございました。

カーボンニュートラルの水素とアンモニアの活用については、中日新聞の昨日の夕刊だったか、随分詳しく取り上げられていて、非常に興味のある記事でした。

資料2-1、2-2につきましては、事前に皆様からいただいたご意見については既に取り入れられているということですので、確認をしていただければと思います。資料3は、今回、はじめて提示されたものになります。

では、これらについてご意見をいただきたいと思いますが、今回も、内田委員から順番に、お一人5分程度でご発言をお願いします。

内田委員、お願いします。

○内田委員

前回コメントした章立てを含め、内容の追加・修正をいただき、項目あたりまではだいぶバランスが取れてきたかなと思います。気になる点について申し上げたいと思います。

P5、「社会全般の変化」ということで括っていただいています。項目としては(1)～(3)となっています。第1章の前段であまり重くなってもいけないとは思いますが、社会全般というと、グローバル化や格差社会の加速で、家計や企業だけでなく、地域間格差が広がっていくような状況もあると思います。そういった内容を入れると、後半に出てくるネットワークで格差のある地域をつなげなくてはならないという結論にもつながっていくと思いますし、ダイバーシティのような多様な社会などにも繋がっていくのかなと思います。さらに、東京一極集中の加速という従来の傾向に加え、コロナ禍で一極集中に少し歯止めがかかって地方分散の動きも出てきたりしていますので、ここがいいか分かりませんが、どこかに記述があってもいいのかなと思います。

P10、「生活の変化」ということで、項目を分けていただいたので生じた問題なのですが、生活の変化の中に、「働き方の変化」と、「ライフスタイルの多様化」という項目がありますが、特に、(2)ライフスタイルの多様化の方は、「多様化」と言いつつ、内容としてはそこまで手厚いわけではないので、これはシンプルに「変化」でいいのではと思いました。

(1) でいうと、テレワーク実施状況の変化がありますが、そこから派生して、オフィスの地方移転の動きとして、例えばパソナなど本社機能の多くの部分を移転する計画を打ち出していますので、そういった数値や統計データを合わせて入れていただければより説得力があるのかなと思います。

P11の(2) ライフスタイルの多様化でいうと、項目は「変化」にした方がいいと思うのですが、図表の順番的には、コロナ禍における国民の意識の変化があって、ネットショッピングの急増があり、ライフスタイルの多様化と関係人口ということで、ネットショッピングがやや位置的に違和感がありました。ネットショッピングだけではなく、キャッシュレスがあってもいいのかなという感じもしますので、検討いただければと思います。

P13、14、「産業の変化」のところで言いますと、新興国の成長による国際競争の激化と労働や産業の質の変化を入れていただいているのですが、自動車産業の構造変化のような内容は中部として特に触れておく必要があるかと思います。

P30、「若者、女性の訴求力」のところで、女性の首都圏への流出超過、転出超過という数字も結構取りやすいと思うのですが、それが見当たらなかったのと、特に女性の希望職種のミスマッチがあるというところで、これは大学に進学したときのデータはP31に載せていただいているのですが、就職年齢時の流出も多いと思いますので、そういったデータが取れるかどうかを確認して頂きたいと思います。

P32は、「東京圏または愛知県の大学等に進学した理由」で、これは、東京圏と愛知県のデータしかなかったのかもしれませんが、意味的に、中部圏内の愛知県も入っているのが違和感がありました。

P35、「目指すべき将来像」のところで、2つめの「男性中心の業態が多い中で」について、“職種”の方がいいかなと思います。次の段落では、音楽も入れておいた方がいいかもしれません。

3つ目の「自らが、人を中心とした地域をデザインできる地域」というのは、私の理解不足なのか、ちょっと文章を読んでいてわかりにくいというか、表現の理解が難しい印象がありました。

次の、「若い女性が働くためには、子育ての環境整備も必要となる」と直接つなげてしまうと、子育ては女性がやるという前提にも受け取れますので、このあたりは文章について、前後を逆にするなどして、配慮いただければと思います。

コンパクトシティというワードは、次のポツ（・）に入れてもいいのかなと思います。

P36に中山間地域のところがあったのですが、中山間地域に絞ったのには何か意味があるのでしょうか。半島先端部とか島嶼部とか、そのあたりは入れてもいいのかなということと、2つ目のポツの「海外の視点を取り入れ」というのは、唐突でよくわからなかったのので、何か説明があればお願いします。

次の「世界的課題にチャレンジする地域」というのは、カーボンニュートラルやエコシステムでもいいのかなという感じもします。

次の「クリエイティブな仕事、イノベーション」のところでは、今後、中部で主流となっていくだろうオープンイノベーションのようなキーワードを入れてはどうかと思います。

P37、「個性を磨き助け合う地域」のところで、助け合うという視点でいうと、首都圏のIT産業と中部のものづくりのシナジー効果というか、製造業の高付加価値化に向けた交流の視点を少し入れてもいいのかなと思います。

最後に、P40、「スタートアップ企業・人材を惹き付ける環境、仕組みづくり」のところは、やはり、リアルコミュニケーションの重要性も強調して頂きたいですね、最終的な商談はリアルでやらなくてはいけない部分がありますので、グローバルに首都圏と中部、関西と中部とのリアルなコミュニケーション

ンの重要性を少し強調した方がスタートアップにもつながっていくのではと思います。

○奥野座長

ありがとうございました。

林部長、リプライは最後にまとめてお願いできますか。いずれも非常に重要な指摘だと思います。

中山間地域という表現ですが、これは、国土計画の昔からの独特の表現で、漁村、半島の先端地域は、意識の上では含めているのですね。言い方として、中山間・漁村という書き方はしないのですが、議論の上では、どうしても山の方が中心の書き方になりますけれども、そういうところも含めて議論しているのが我々の認識でした。ただ、ご指摘は全くその通りだと思います。

ありがとうございました。

では、小川委員お願いします。

○小川委員

メールでも意見を述べさせていただいたことを、かなり反映していただきまして、どうもありがとうございました。

感想も含めて思ったことですが、P10の生活の変化のところが、2つのタイプに分かれて記述されるようになっていきます。特に、働き方の変化は、これからもどんどん変わって行って、キーワードとしては出ていないのですが、ギグ・エコノミーやあるいはフリーランスという働き方が、おそらく増えていくということで、非常に大きく変わっていく項目なのかなと思っています。

(2) ライフスタイルのところ、eコマース(ネットショップ)なんかを書いていたのですが、データを見てみると、おそらく日本と海外で全然違うのは、日本のネットショッピングは、ほとんど日本国内のネットショッピングしかやっていないのですね。95%の人たちが、日本のサイト(楽天、ヤフーなど)から買っていて、それで、eコマースだ、オンラインショッピングだと言っているのですが、外国を見ると、50%ぐらいの人たちは、自分の国以外からオンラインショッピングしているので、クロスボーダーeコマースのような状態になっています。多分、それは日本人が言語の壁に守られているのか、外に買いに行く力がない状況なのかもしれませんが、言語の問題も自動翻訳が発展すると将来的には、他の国と同じようになるのではないかと思うので、国境を越えたeコマースが日本でどんどん増えるかもしれません。そうすると、国際輸送、国際貨物、情報インフラの重要性が高まってくるのかなと思っています。

P13あたりの産業の変化の部分についても、以前はGDPという物量的な尺度だけで書かれていたのですが、質の変化も付け足していただいたと思います。ここも大事です。昔のIT化というのは、いわゆる肉体労働を一部代替するというものが多かったと思います。工場にロボットが入って肉体労働から解放されるとか、手書きで原稿を書いていたのが電子的に入力できるようになるといったことです。今後、AI、あるいは機械学習というものは、思考労働とか、頭脳労働の一部を代替するようなインパクトがあると思っています。

IT化で肉体労働の一部が機械に代替されたときに、失業者が増えるのではないかという話があったと思うのですが、多分それはなくて、新しい産業が出てきました。同じことが、AIの進歩においてもおきるのではないかということは、いくつかの経済学者の中で言われているので、新しい産業が出てく

る時にうまく対応できるような、柔軟に労働者の移動ができるとか、教育ですね、特に学び直しとか、学びの継続ができるようにしておくことが大事だと思います。

P35のQOLを高めるのところにある「人を惹き付け、選ばれる地域」のところですが、これは、他の地域から優秀な方とか、中部地域で活躍したいという人に来ていただくということが書かれていて、クリエイティブな人材を呼び込むような地域を作るといことなのですが、もう1つ、地元の人たちをしっかりと育てることも大事だと思いました。それがどこに当てはまるのか探してみたのですが、見つかりませんでした。仮に、地元の人が出て行ってしまったとしても戻ってきてくれるように、地元の人たちを大事にするということが、どこかに入っているといいのかなと思いました。

これは質問になるのですが、P36の一番右下に、「クリエイティブな仕事、イノベーションがうまれる地域」というものがありまして、1つめのポツのところに、この中部地域が、カーボンニュートラルについて、世界に先駆けて取り組みが進められているという非常に頼もしい表現があり、なるほど、それは嬉しいなと思ったのですが、それが、具体的に何なのかということがこの段落ではわからなかったのので、教えてください。

もしかすると、後の方に出てくる、カーボンニュートラルレポートが世界に先駆けた先進的な取り組みなのかなと思ったのですが、その関連があれば教えてください。

あとは、非常に細かいことなのですが、図表がたくさん出てくるので、そこにナンバリング(図表1、図表2)していただくと、読み手にはありがたいと思います。

○奥野座長

ありがとうございました。

林部長、今のカーボンニュートラルの件ですが、ここに何か1つでも具体的な事例が入ってくると分かりやすいのではないかとということですが、何かありますか。

○司会(林企画部長)

水素ステーションの話等、入れさせていただいたのですが、その部分や、カーボンニュートラルレポートといったことを新たにやり始めた、ということをおっしゃったのですが、その認識がどうなのかということはありません。

○奥野座長

ありがとうございました。

水素ステーションは、さきほどの図表にもありましたが、中部圏ではかなり熱心にやっています。今の段階では、そんなに広がっているわけではないということは認識していますが、先駆けた取り組みとして入れておくのは、小川委員がおっしゃるように、理解には役立つように思います。水素やアンモニアね。例として1つ入っていればと。

○司会(林企画部長)

例として、入れるような形にさせていただきます。

○奥野座長

小川委員いいですか。

○小川委員

結構です、ありがとうございました。

○奥野座長

ありがとうございました。それでは続いて、朽木委員お願いします。

○朽木委員

とりまとめをしていただきありがとうございます。

前回は申し上げましたが、総務部に所属しておりますので、専門的な領域に突っ込んだ話はなかなかできないのですが、トヨタ自動車という立場から感想めいたこととお話させていただければと思います。

カーボンニュートラルは先ほどから話題に出っていますが、まったなしということで、トヨタ自動車も、自動車で、日本や世界をけん引していかないといけないなと思っております。

6月に、工場でのカーボンニュートラル、これは2050年ということではなくて、2035年に前倒しをして実施をしていこうという発表をさせていただきました。どんどん、出来ることを前倒ししながらやっていくという視点が、待ったなしの状況では必要だと思っております。

前倒しの視点と、どんどん仲間を増やしていくという視点、新たな発想で新たな挑戦をしていく、という3つの視点が重要だと思っております。

こういったことを、中部、日本発信で、自動車を中心となりながら、牽引していけるといいなと思っております。

○奥野座長

ありがとうございました。

榊原委員お願いします。

○榊原委員

私の専門であるカーボンニュートラルのところに絞ってコメントをさせていただきます。

冒頭のP7、8、9(カーボンニュートラルへの対応)のところですが、上手に例を引き、まとめられていると思います。

先ず、発電用の脱炭素燃料としての水素やアンモニアの利用は、今日の新聞にも出ていたとおり既に着目されていますが、水素ステーションのデータを提示した上で、脱炭素燃料は発電用のみならず自動車産業も対象として拡大していくというシナリオは、なかなか良い切り口だなと思います。

特に、発電事業者の視点で考えると、洋上風力というのは、北海道とか東北といった域外に適地があり、中部圏にはなかなか開発の余地が少ないということは大きな課題ですが、中部圏のカーボンニュートラルの在り方として、域外の再生可能エネルギーを最大限に利用しつつ、トヨタさんをはじめとする全ての産業で脱炭素燃料の使用を前に打ち出していくシナリオというのは非常にわかりやすく、また中

部圏の差別化が図れるように思いました。

次に、P36（クリエイティブな仕事、イノベーションが生まれる地域）の話が出ましたので、私の方で少し補足をさせてもらいます。“カーボンニュートラルについても世界に先駆けて取り組みが進められている。”という記載について、先ほどから具体的な例を考えておりましたが、今日の新聞には先ほど紹介いただきましたが、石炭火力におけるアンモニア、および東邦ガスさんの工場の電源で使用する水素といった発電用の燃料の話が掲載されています。当該ページには、他にも 2030 年の見通しとして、発電のみならず水素ステーションを含めた他産業の燃料使用に関する興味深い資料も載っておりますが、私は、特に石炭火力におけるアンモニアの燃料としての利用については、日本が率先したという認識をしています。

海外では、水素をそのまま使うという流れですが、水素の輸入を考えた場合、水素キャリアとしてのアンモニアは液体水素に比べて輸送効率の点で非常に有効です。アンモニアにより水素を効率的に輸入すること、また、水素キャリアとしての利用と並行して石炭火力で直接燃料として使用すること、その先に、アンモニアをアジアで使うことを念頭に中部圏を拠点にしてインフラ整備をし、新ビジネスにつなげるという話も可能だと思うので、もし「世界に先駆けて」という記載をするのであれば、アンモニアの話は少し入れるとわかりやすくなるのかなというふうに思った次第でございます。私も全体のレビューをしますが、アンモニアの話はかなり日本が先行して進めた話だと、特に中部圏が先行して進めた話だというふうに強調しても良いと思います。

P41, 42（カーボンニュートラル）では、もちろん電気自動車の拡大は重要ですが、（ライフサイクル CO2 ゼロチャレンジなどを考えると）水素のような脱炭素燃料の拡大も非常に重要だと思っています。これは伝え聞いた話で確認を取ったわけではないのですが、例えば建設重機みたいなものの電動化というのはちょっと難しい部分もあって、現状の内燃機関をひきつづき使いたいという話もあるようです。そういう分野で脱炭素燃料を使っていくというのは非常にわかりやすい話なのかなと思います。

最後に、2 ポツ目は、私の方で少しきちっと確認しておけばよかったかなと思いますが、水素やアンモニアの活用による火力発電の脱炭素燃料化は、記載の通りでございます。アンモニアは確かに実証をきちっと進めております。一方で、バイオマス燃料は既に実用化されていて中部地域でも拡大をしているフェーズにあると私は思っております。したがって、ここを修文いただくのであれば、“現在、石炭火力発電所においてアンモニアを混焼するという実証が進められている。また、バイオマス燃料については、石炭火力における混焼の他、小規模の専焼発電所の活用など拡大の可能性はある。”といった書き方にさせていただければと思います。地域の特徴を踏まえた小規模のバイオマスの発電所というものが、今後出てくる可能性があり地域の産業として根付いたものになればと思ったところでございます。

ちょっと絞った発言で申し訳ございませんが、以上です。

○奥野座長

ありがとうございました。

それでは続きまして、末松委員お願いします

○末松委員

まとめていただきまして、どうもありがとうございました。

特に、中部圏の中では、災害に注目をしていく必要があるのかなというところでP15のところから災害にページを取っていただいていたかと思います。

南海トラフがそうなのですが、東日本大震災があってから、それを教訓に、南海トラフについての予防もしていかなければいけないというところも含めて、実際にあったところと、事前防災っていう意味合いのところを少し分けて整理をしていただくと、もう少し見やすくなるのではないかなと思います。

合わせてP17のところなのですが、頻発する自然災害ということで、図表の中ではしっかり書いていただいているのですが、もう少し文章で、実際に災害でどういう被害があったとか、中部ではこういう特徴があるというようなことを説明していただくと見やすくなるのではないかなというか、自分の中に落とし込みやすいというか、そういうような感じがいたします。

P35のところから、人について書いていただいております、特に一番最後のところで、子供、女性、外国人というところで、中部の特徴のあるところを書いていただいております。

これは中部だけに限らず、全国的にも、今後、若者や女性や共生していく外国人に対して、期待をするというところが、もう少し強めに書いていただくといいのではないかなと思います。

全体的にもものづくりであったり、中部特有のこの真ん中の地域を活かしたものであったり、物流であったり、情報であったりっていうようなところについては、非常に全体的によくまとめていただいていると思うのですが、人に対する部分であったりとか、次世代にどういうふうなことを期待していくかという部分のところは、少し加筆をしていただくと、今後の2050年を見据えた中部地方ということですので、担い手の部分も、もう少し丁寧に書き込んでいただくといいのかなというふうに感じました。

P43の最後のところですが、リニアを生かす関係人口の拡大と書いていただいております、東京一極集中ではなく、地域を相互に補完するんですよ、というようなことはわかるのですが、このようなことをすることによって、どういう関係人口を増やしていくか、どういうところを求めていきますよというのが、少し抜けているのかなというような気がいたしました。

ちょっと違う視点なのですが、全体的に、図表と文章がどういうふうに関連性があるかっていうのをサーッと一読したときに、なかなか一般的な人には読みづらいかな、わかりづらいかなっていうところがありまして、もう少しこの文章と図表がどのようにリンクをしているのか、あるいはちょっと図表が全体的に多いのかなというような感じがいたしました。

字体も含めて、ユニバーサルというか、そういう視点に立っていただきながらまとめていただくと、せっかくいい内容が書いてあるところが、見やすく伝わりやすくなるのではないかなと思いました。

写真についても、会議をしている写真とか話し合いをしている写真が非常に多くて、できれば、ウォークアブルの写真であったり、ものづくりをしている人たちが汗をかいている写真とか、そういう訴えるようなものっていうのが、この資料の中から見受けられると、非常に良いのではないかなという感じがいたしました。

私も行政でこういうものを作るときに、そういうような写真を使ったりとか、子育てをして、いろんな子供たちが動いている写真とかがあると、この冊子自体にも動きというか、元気というか力が出てくるような気がいたしましたので、ちょっと違う観点なんですけど感想を述べさせていただきます。

○奥野座長

ありがとうございました。

見た人、一人一人の中に落とし込みやすくするために、もうちょっと肉厚にしてもいいのではないかというご意見ですね。

先ほども、例をいれた方がいいという意見がありましたが、それを含めてブラッシュアップをしていただきたいと思います。

ありがとうございました。

続きまして、戸田委員お願いします。

○戸田委員

これまでの検討会の中で、いろいろ意見を申し上げたことをしっかり取り入れていただいて、非常にわかりやすくまとめていただいたと感じております。

私としては、これまで検討会やあるいはメールで意見のやりとりをし、修正等も入れていただいたので、今回の中間取りまとめの具体の部分に、さらなる修正意見はないです。

ただ、感想のような意見ですが、この検討会で議論する中で、曖昧な形で、私自身の中でこの中部という地域の良さや課題というものを感じていたものが、今回の中間取りまとめの中で、きちんと体系的に、色々な視点で分類いただいていると思います。

こういった体系的に整理されたこの地域の良さとか課題というものを、どう伝えていくのかということが、今後の進め方の中で非常に大事なのかなと思いました。

資料3では、最終取りまとめに向けたフローが提示されており、地域づくりの担い手の市町村や経済界の方々の意見を取り入れて、最終とりまとめをしていくというこのフロー自体には賛成ですが、そうしてできた最終取りまとめ案を、実際この地域の方々にどうPRしていくのかということも、今後の議論の中で大事になるのかなと思いました。

今後の地域づくりとかまちづくりの中で、プロジェクトとして取り組まなくてはいけないことがありますが、私が思うには、地域の住民の方が、この地域が持っている良さや課題に、まだまだ自覚的になれてないところがあるのではないかなと。今回の中間取りまとめ、あるいは最終取りまとめを読んで、自分たちの地域の良さ、課題を認識した上で、地域の方の理解と共にプロジェクトを進めていけるような土壌作りみたいなものが、この中間取りまとめあるいは最終とりまとめの活用として、期待できる方向に今後の議論が進められるといいと感じました。

○奥野座長

どうもありがとうございました。

続きまして、豊田委員お願いします。

○豊田委員

私もメール等々で意見したのですが、それがかなり反映されていますので、私から2点のみ、細かいことをちょっと言いたいのですが1点目、P1に、中部圏長期ビジョンの対象地域とあるのですが、長野県南部から入って、岐阜、静岡、愛知、三重というこの並びがすごい気になって、行政的な文章では、こういう何か理由があるんですかね。少なくとも、弊社ですと、愛知県からやっぱり入って、愛・三・岐とかですね、そこが引っかかっています。

あともう1点、これも細かいことですが、P34のQOLの日本語の訳ですが、これはあれですよ、
「個人の」が後ろにこないとおかしいですよ、「地域と生活に対する個人の満足度」とこない、ちよ
っと意味が違ってくるのかなというふうに思いました。
その2点のみです。

○奥野座長

ありがとうございました。

続いて、森川委員お願いします。

○森川委員

前回も、少し、将来像のところで大きな意見を申しあげて、それを反映していただいて「世界的課題
にチャレンジする」ということを入れていただいて、ありがとうございます。

私の認識が違ったのか、前回はこの3章までを議論して、今回は4章の実現に向けてのことを議論す
るのかなと思っていたのですが、今日は最終的にこれでOKですねみたいな会なのかなと思って、とま
どっています。

というのは、ちょっと4章が、私から見るとあまりにも何もまだできていない、下書きみたいな段階
だなという印象です。

3章までは、皆さんで話し合っ、やっこの3本柱で将来像を作ったのに、4章でそれを実現する
実際のプロジェクトが、ほとんど3章の将来像と結びついてないイメージで、こんなんでも良かったです
か、という根本的な疑問を持っています。

4章のことについて申し上げますと、まず防災、これ特に重点連携プロジェクトですね、この中部圏
が全体で連携しなくてはいけない、防災の話はこれはもう当然結構かと思えます。

でも、もう一つこの中部圏の役割として、日本の真ん中にあるとか、ネットワークの中心だというよ
うなことがあって、首都圏に有事があったときのバックアップということが抜けているのかなと。具体
的に中部地整もご存知のように、三の丸地区の改造プロジェクトみたいなものもありますので、それは十
分書き込めるんじゃないかなと思えます。

それから、(2)スタートアップとありますが、これちょっと疑問で、中部地整が書くことなのかな、
と。しかも重点連携プロジェクトで、どこかと連携しているのですかということ、例えばナゴヤイノ
ベーターズガレージだったら、中経連と名古屋市の話だし、ステーションA Iは愛知県だし、というこ
とで、これは要るのですか、中部地整が何かやるのですか、ということです。

観光は、連携なのでこれは結構で、昇龍道でいいかなと思えます。

それから、カーボンニュートラルも結構かなと思うのですが、産業界のことが書いてあるので、産業
界のことについて、国交省が何かやるんですか、ということもあります。

それからネットワーク、ここが一番、中部地整、国交省が力を入れてやるべきことなのですが、ここ
はすごくおぎなりの書き方で、先進モビリティの話をちょっと書いてあるだけなのですが、この地域は
当然ながら、モビリティ産業の世界的なメッカで、最先端で一番画期的なことは、静岡県の裾野でやっ
ている、トヨタがやるウーブン・シティみたいなものがありますし、あれはあれで閉じた空間ですが、
そこからトリクルダウンみたいなものも考えられますし、最近だと空のいわゆる三次元交通ですね、

VTOLとか、ドローンを使った試みだとか、そういうことも抜けています。

リニアを生かす関係人口の拡大も、何か産業がチョロチョロとあって、関係人口を増やすと書いてあるだけで、どうやって増やすのということなのですが、リニアを生かすのだったら、リニアを生かして、この中部圏内の交通ネットワークを、様々な鉄道、道路、それからバスターミナルの整備とか、中部地整が本当にやるべきことがもっとたくさんあるのではないかと思います。

具体的な例を言いますと、例えば岐阜県の中津川に出来る岐阜県駅ですね、そこを活かすには、高速道路を下呂の方に早く通さないほとんど効果がないと思うのですが、今、濃飛横断自動車道という計画はありますが、あれは県の事業だからなのか、本当にチョロチョロとしか事業化できていなくて、そこをもっとテコ入れして、東海北陸自動車道につなげるところを、もっと早くスピードアップしないとリニアにおける岐阜県の効果は、ものすごく限られるんじゃないかな、ここが、一番中部地整が書くべきところなんじゃないのかなと思います。

それから書きにくいでしょうけど、本当はリニアの今の静岡県の水問題ですね。それからトンネル工事の問題、ここは、中部地整というか、本省なのかもしれませんが、貢献することを国民が一番求めているのに、多分書きにくいからあえて書いてないだろうと思うんですけども、それも抜けています。

3章の、望むべき将来像からこれを実現する方法として、例えば私が申し上げた世界的課題の中の環境ですね、カーボンニュートラルだけじゃなくて、例えば海の汚染の問題、特に閉鎖水域の浄化の問題は、海だけの問題じゃなくて川、それから森林の方へ繋がって、何とかしないとイケない。そういうプロジェクトは立ち上げないのかとか、この中部圏は非常に山が多く、山林資源も多い、また、中山間地域を住めるようにするという事は、将来像に書いてあるのですが、その辺も何もなくて、山を守りながら中山間地域の維持を考えるようなプロジェクトとか、そういうことがこの4章にはずらずらっと並んでいるべきではないかなと思って、この中にスタートアップなんていないんじゃないかなと思った次第です。

この4章はどうするのか、こんな感じでもういいのかどうかわからないので、私がこの発言をしたら、また大変なことになるのかもしれませんが、率直に読んだ感想です。

あと一点だけ細かいことで、P36 食料需給と書いてありますが、私が言ったのは、食料自給のことで、訂正していただければと思います。

○奥野座長

ありがとうございました。

第4章の具体的なプロジェクト等々の扱いについては、これからの議論だと思いますが、林部長、これについて教えてください。

○司会（林企画部長）

事務局の説明が不十分だったと反省しておりますが、今回の第1章から第4章まで、委員の皆様方に地域づくりの方向性とか、将来像について提言をいただくということで、その範囲は基本的にはインフラの整備を中心としてということですけども、その周辺分野にも広げて、中部地整がやるものに限定了な提言という意味合いではないものということで進めさせていただいていたつもりです。

そういう意味で、あともう一つ、第4章の位置づけですけれども、広域的にみんなで連携してやっていくものとして、こういう5つの視点があるのではないかということで、委員の皆様のお話をまとめて、観点として5つ、南海トラフの戦略会議とか、あるいはカーボンニュートラルレポートとかそういった横断的なものがありますよというところまでを今回いただいたというふうに思っています。

ここについては、おっしゃられるように、やるべきものが網羅されているわけではないと理解していますので、こんなものがあるね、というところまでを今回ご提言いただいて、実際にやる施策については、中部地整だけじゃなくて、地域の担い手は市町村であると思いますので、市町村にこういう提言をいただきましたと説明をし、浸透し、市町村としてはこれに関連してこんな仕事、こんなプロジェクトがありますよというものを私どもが聞いてくる、そういうようなことをしながら、どんなプロジェクトがあるのか、主要プロジェクトを拾い集めてくる作業を行います。

もちろん、国や県、関係機関もありますので、そこについても説明をして、それぞれどんなプロジェクトがあるのかというものを、これから拾い集めて、さらに連携するものについてはまとめていきます。

経済界、もちろん中経連であったり、県の商工会議所とかそういったところにもできる限り声をかけて、地域づくりとして、いただいた提言に対してどんなものができるのか、そういうものを拾い集めてきて、次回提示をさせていただいて、実際に地域づくりの担い手から反映された、まさにこの提言に沿ってやるようなものについて、こんなものがあるということでご提示させていただきます。

おそらく、その中でもまだ足りない観点が出てくると思いますので、そこについてはまた引き続きブラッシュアップをしていく形で、最終報告にこの提言、それから実際にやるようなプロジェクトは何なのかというものが、第4章をベースにしながら、実際に各主体に投げかけてみてそれが上がってきて、それを束ねたものが最終報告、そんなイメージで事務局としては考えているところでございます。

○奥野座長

ありがとうございます。

これから自治体説明とありましたけれども、そこからいろいろご意見聞きながら、この第4章の部分は今から中身を充実させていきたいという趣旨でございます。

第4章の頭の方で、そういうことがわかるように書いておいた方がいいかもしれませんね。

○司会（林企画部長）

はい。はじめにのところにちょっとだけしか書いてないものですから、よくわかりました。

追記させていただきます。

○奥野座長

ありがとうございました。

続きまして、山田委員お願いします。

○山田委員

他の方もおっしゃっていますが、このとりまとめ作業、相当大変な作業だと思いますけど、こうやって進んでいることに敬意を表します。

全体の中で、私の方から4点ぐらいですかね、気づいたところのございまして、P1の「はじめに」が、先ほどの森川委員の話ともかぶるところかもしれませんが、中段に「将来像についての提言をとりまとめた」という言葉があります。私、今までこの会議の認識としては、世に提言をする会議ではなくて、やるっていうことをそのビジョンを描いてビジョンに近づくためにみんなでやってきますよという話かなと思いきや、ここに提言をとりまとめたとあると、要はこの中間とりまとめといいますか、今の検討会が、提言をするためのものだったのかという認識をしていなかったものですから、そこが実際どっちなのかという話はちょっと後で確認をさせていただきたいと思います。

私の理解では、提言というのは世の中こうあるべきじゃないですかという投げかけをするだけであって、それが実際に実現するかどうかというところにコミットしないものじゃないかなと思っておりまして、今回、私はこのビジョンを策定して、それに近づくために様々な施策が実行されるというビジョン策定をするというふうに理解したものですから、そのどちらかというところはちょっと後で確認をさせていただきたいなと思います。

というのが、はじめにのところで気付いたところです。

続きまして内容的なところに行きますと、目指すべき将来像のところ、P34以降のところなのですが、今までの発言とかぶるところかもしれませんが、P34の中段ですね。「東京に比べて自然環境が豊かで土地が安く、豊かで暮らしやすい」とありますけれども、今、対東京で何かを議論するというよりは、強み・弱みみたいな話も、何度かさせていただいたのですが、東京一極集中から逃れるというか、そこから社会を変えていくために、それこそ関西なのか、九州なのか、四国なのか、そういう地方都市と比べて、名古屋を中心とした中部圏がどういう姿にあるべきなのかというような、そういう視点ももう少しあってもいいのかなと思いました、というのが二つ目の視点です。

次のP35、これは、ちょっとてにをは的なことかもしれませんが、中段に「生活を楽しくする自然、歴史・文化、芸術等」とのところで、1つめに、「中部圏は、製造業が強く、男性中心の業態が多い中」とありますが、これは、表現として適切なのかどうか。製造業って男性中心の業態なんでしょうかというところが、若干引っかかります。もしこれが本当にそうなのであれば、このエビデンスを、1章、2章のところで、製造業が男性中心の業態であるって言うことが言えないと、ちょっと表現としてはそれこそ今の様々な多様性の社会の中では引っかかるものなんじゃないかなというふうに思いました。

それから、観光のところですね、4章に入りますかね。P40、41のところですが、多分、私の発言を取り入れていただいて、自転車にフレンドリーな社会のインフラ整備をするときに観光の視点もということに入れていただいて、非常に嬉しく思います。

ただ一点、中部地整の今後のビジョンという意味では、自転車って、観光用途というよりは、生活圏の中で自転車にフレンドリーな地域があると、旅先に行っても自転車に乗りたいたいというような流れになると思うので、観光のために自転車道を整備するというよりかは、それこそカーボンニュートラル社会の中では、自転車がモビリティの一つとして、それが受け入れられるような社会ができると、住んでいる方も訪れる方も、自転車に乗ってその地域を楽しめるという意図だったので、その辺を少し書いていただけるとありがたいと思いました。

最後の一点ですけど、先ほどちらっと出たP43、リニアのところですね。

実は僕、別件で、岐阜県のご担当の方から、リニアが通った後のエリアのビジョン策定みたいな検討会がありまして、この中でヒアリングを受けたときに、私自身が本当にリニアというものを初めてちゃ

んと考えたというか、今まではなんか遠い話であって、あまり考えたことなかったのですが、それこそ中部地整のインフラ整備をされるこの部署でいうと、このリニアの捉え方というのは、結構大事なのではないかと思います。

名古屋であれば、より早い交通網が辿り着いてくるということで、名古屋の議論ってあると思うのですが、やはり中津川とか、飯田にももう1つ駅ができるということで、実は中山間地である中津川みたいなところに、超早い、東京から何十分で来ちゃう、そういう高速交通網ができたときに、それこそ新しいライフスタイルみたいなものが、中津川や飯田あたりで実現できるチャンスなんじゃないかなということを岐阜県の方からご説明を受け、これってどういうことだろうって考えたときに思ったのですね。

それこそ移動が非常に速くなるし、今のオンラインとかですね、要は中山間地に住める社会が来るときに、その交通網があることは超利点だと思うのですが、それを受けて、今までの、新幹線ができます、駅前を再開発しますという議論とはまた違う、要は本当に森林の中に家を構えて、オンラインで仕事しながら必要に応じて、サクッと東京に行っちゃうみたいな新しいライフスタイルが実現できるような可能性を秘めた理念が入っていることを思いますと、名古屋じゃなくて中津川とか飯田あたりに、新たなその生活圈を作るという意味合いで、この中部地整のビジョン策定の中にも、リニアを生かすと書いてあるところの内容を、もう少し強化をして、重点施策みたいな形で置いてもいいのではないかと思いますので、その点を付け加えさせていただきます。

○奥野座長

ありがとうございました。

我々は、中間駅と言っておりますが、山田委員のご意見、全く賛成であります。

そういうことを申し上げてきておりますが、最初の、第1点目の、これは、提言で参考にしてくださいという話なのか、施策のためのビジョンなのか、その辺の性格的なところをちょっとお話いただけませんかね。

○司会（林企画部長）

今、共有資料で提示をさせていただいていますが、これも事務局から丁寧な説明ができてなかった部分なのかもしれませんが、設立趣意のところ、本委員会は…というふうなことで書かせていただいているのですが、最後の段におきまして「中部の第3次まん中ビジョンの理念を踏まえながら、状況等々分析し、今後の中部圏の地域づくりのあり方、将来像について提言をいただくために設置」というふうなことでご提言をいただくために、議論をしていただくということでやっておりますので、委員の皆様だからこうあるべきという意見を基本的に集約させていただいて、今、中間とりまとめの段階までまとめたこと。

これを実際の地域づくりの主体の方に投げかけまして、こんなプロジェクトがあるといった、先ほど申し上げたようなプロセスを踏みながら、具体のプロジェクトを合わせた形で最終とりまとめというふうな形で、主体の方からも、また意見等も出てくると思いますので、それもフィードバックさせていただいてまとめていく、そんな進め方でやらせていただければということでございます。

○奥野座長

ありがとうございました。

意見を聞くというだけではなくて、これからの施策の実施に当たって非常に重要な軸になるということだと理解しております。

それからまた、今、国の方では第3次の国土形成計画の議論に入っておりますけれども、そういうところにも皆さんのこの議論は、大変重要な資料として影響を与えるものというふうに考えております。どうもありがとうございました。

一通りご意見、ご発言いただきましたけれども、まだ若干が時間ありますので、さらに追加してご発言ありましたらどうぞご発声をください。

○山田委員

先ほどの続きなのですが、この検討会そのものがですね、我々が委員として、検討委員から提言を出すということはその通りだと思うのですが、要はこの中間とりまとめというのは、中部地整として世に提言を出すだけの会と思えばいいのでしょうか。

要は、検討会ではなくて、このビジョンですね、中部地整としてはこう考えているので、皆さんそういうことを思う人は是非動いてくださいって話なのか、中部地整として、今後、様々なプロジェクトの進捗をウォッチしていくのかどうか、そうあるのであれば、多分、それこそ4章のところで具体的なプロジェクトがいろいろ列挙されて、その進捗をそれなりに管理していく、もしくはそのKPIが設定されるみたいな話になるのかなと思うのですが、中部地整として、このビジョンをどう捉えているのか。検討会の位置づけは十分理解したつもりですけど、このビジョンがどうなるのかというところのお話をもう少しだけお聞かせいただけるとありがたいなと思います。

○司会（林企画部長）

委員の方々からご提言をいただいて、それは中部地方整備局としてもしっかり踏まえて、これから施策に反映していくということはやらせていただきたいと思っています。

もちろん、我々が主体的に取り組むプロジェクトもありますので、そういうものはしっかりやらせていただきたいと思っています。それも含めて、あと各主体の方々を持ってくるものも合わせた形で提示をしていくということだと思っています。

ただ、各主体から提示されるものについては、中部地方整備局に責任があるものではないので、それをフォローアップしてやらせるというふうなことにはおそらくならないと思います。

今後の進め方にもなるのですが、最終とりまとめの後も、進捗状況についてフォローし、どこまで進んでいるのかということについては何らかの形で確認をし、必要があれば、お手間になりますけれども、委員の皆様方にご報告とか、場合によってはお集まりいただくとか、状況によりけりですけども、引き続き関与していただければと考えております。

○奥野座長

ありがとうございました。

私の理解では、こういったものは、考え方の軸になるものでありまして、そのもとで色々な具体的な

プロジェクトが、中部地整が直接関わってらっしゃるもの、それから間接的なもの、色々あると思いますけれども、そういうところで山田委員がおっしゃるKPIのようなものが作られて、フォローアップされてチェックされていくというふうな性格のものだと思っております。

現に今までのビジョンをベースにして動いておりまして、これから個々のプロジェクトについても、こういった考え方を軸として、進行管理が行われるというふうを考えております。

山田委員、よろしいでしょうか。

○山田委員

ありがとうございます。

先ほど他の委員の方がおっしゃったスタートアップとかですね、その辺の違和感は多分そこにあると思っていて、中部地整として主軸になって進めていくものと、そうでないものというのが、今、その線引きがよく見えない状況なので、今後、4章以降をまとめるときに、その辺が明確に見えるようなまとめ方になれば、我々だけではなく、見る人にとってもわかりやすいになるといいなと思いました。

○奥野座長

ご意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

ありがとうございました。

今日、皆さんから色々ご意見をいただきました。

私はこれを拝見して、骨格については非常によく整理されていると思います。

更に皆さんから色々な視点から、さらに肉付けすべきだというご意見がありました。それで、性格もはっきりするし、内容もさらによく理解されるのではないかと、これはこれからの必要な作業として、また進めさせていただきます。

それから資料3について、各自治体（市町）にこれから中部地整として説明をなさる、これは、先ほど山田委員や戸田委員からもご発言ございましたけれども、非常に大事なことだと私は思っております。

県レベルでは、ここで皆さんがどういう発言をしてらっしゃるかということは、担当部署はかなりフォローしてらっしゃって、それは県の施策なんかでも生かされていくのだと思いますけれども、各自治体（市町）では、必ずしもそこまではフォローしてらっしゃらないのではないか推測をしています。

中部地整の方は、大変なお手間だと思いますけれども、各自治体に説明をなさるということになりますと、各自治体がこれからの自治体の計画、あるいはビジョンを考えるときの非常に重要な資料になっていくのではないかと思いますので、お手間だと思いますけれども、ぜひともやっていただきたいと考えております。

私の感想は以上であります。

今日、色々ご意見をいただきましたので、事務局で反映して、さらにブラッシュアップしていただきたいのですが、ブラッシュアップしていただいたものをまた、皆さんのところに一度、フィードバックをしてもらえますかね。

それから皆さん、特にご発言になったところ、あるいはそれ以外のところも含めてで結構ですが、それについてご意見をいただいて、1回で終わるかどうかはまた別でありますけれども、その上で中間報告としてとりまとめるということにさせていただきたいと思っております。

皆さんからこのぐらいで中間報告としてはいいんじゃないかということをお願いしましたら、中間報告としてのとりまとめの決定は、私の方にご一任いただきたいというふうに思います。そういうことでよろしいでしょうか。

○一同

異議なし

○奥野座長

はい、どうもありがとうございました。

それではそういうふうにさせていただきます。

それでは改めまして今後の予定等について事務局から説明をお願いします。

(4) その他

○事務局（加納事業調整官）

今後の予定に関しましては、本日の委員会を踏まえて、個別に先生方にご意見を確認させていただきながら、中間とりまとめの公表に向けて進めていきたいと思っております。

引き続き、最終とりまとめに向けまして、次回の検討会につきましては、後日、事務局よりご案内させていただきます。引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

○奥野座長

ありがとうございました。

皆さま方には、これから秋にかけて、また、大変なご協力をいただかなくてはいけないということでございますので、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは議事については以上にさせていただきます。

ありがとうございました。

あと事務局をお願いします。

3. 閉会

○司会（林企画部長）

本日も貴重なご意見を有り難うございました。

本日もいただいた意見については個別にご相談させていただいて、とりまとめを進めさせていただきたいと思っております。

最後になりますが、堀田局長から、一言ございましたらよろしくお願い申し上げます。

○堀田整備局長

奥野座長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、大変お忙しいところ、第4回 中部圏長期ビジョン検討会にご参加いただき、また熱心にご議論いただきまして本当にありがとうございます。

今まで6月からですかね、数えると第4回ということで、4回ほとんど駆け足みたいに来たところが

ありますので、本当にまだまだ皆様の議論をいただきたいところもあるかと思うのですが、一旦ここで中間報告案という形でまとめさせていただいて、各市町村あるいは県に一旦投げてみたいと思っています。

ここで中間報告という形でまとめさせていただいて、市町村はこれをどういうふうにとらえてくれるのか、具体的にどういうプロジェクトを動かしているのか、先ほど森川委員の方からも話ありましたけれども、例えばニアの関係で中津川ではいろんな取り組みをやっており、我々も交付金を交付してまちづくりを応援しているのですが、それを我々が整理するというよりは、むしろ市町村からどういうプロジェクトで考えているのかというようなことをしっかり聞かせていただきたいなと思っています。

そういったものを拾い上げていって、改めて議論したいと思っています。

本日も、本当に活発な議論をしていただきましてありがとうございます。

本日の議論を踏まえて、また座長とも相談しながら、皆様方からも意見をいただきながら、まず、中間報告という形で提言をまとめさせていただきたいと思っています。

引き続き最終報告に向けて、作って投げて終わりではどうしようもないので、実際にしっかり実現できるような形で、具体的なプロジェクトを作ることが本当は大事だと思っていますので、第4章はすごく大事なのですが、これはこの形で一旦、考え方を整理したというふうにお考えいただいて、具体的な話は、これから実際に地元を駆けずり回って、またいろいろ話を聞いて、それを踏まえて、皆様にご意見をいただきながらまとめていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

冬の最終的な報告に向けて、またいろいろご指導いただきたいと思っています。

よろしくお願ひします。

○司会（林企画部長）

ありがとうございます。なお、本日の議事録につきましては、各委員へ確認後、中部地方整備局のホームページに掲載させていただきます。

また、「中部圏長期ビジョン検討会 中間とりまとめ」の公表をする際には、委員の皆様にご連絡をさせていただきます。以上をもちまして、第4回 中部圏長期ビジョン検討会 を終了させていただきます。

本日は、長時間にわたり有り難うございました。

以上